

開催日： 令和6年11月28日(木) 天候 晴	開催テーマ： 特別バス探訪 東京下町寺社巡り
開催場所：東京都内	記入者：金久保 常二
参加人数：37名(会員28名、準会員1名、ビジター8名)	
実施内容(実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など)： コース：能見台(集合)=7:30 杉田 IC=首都高速(大黒)=上野 IC=上野 寛永寺(根本中堂 開山堂)=上野 東照宮 =巣鴨 高岩寺(とげぬき地蔵)=王子北 IC=首都高速=四つ木 IC=6号線=柴又参道(昼食：高木屋老舗)=題経寺(柴又帝釈天 彫刻と庭園拝観)=6号線=首都高速(大黒)=杉田 IC=能見台(解散)=17:30 定刻に東洋観光のバスで能見台を出発する。杉田 IC から首都高速に入る。ガイドさんはお馴染みの横田さん、当初よりお願いしていたが諸事情にて決定はしばらく待たされた。穏やかで楽しい語りは従来と変わりなく健在であり、車内は終始穏やかな雰囲気にもまれていた。 約一時間半で最初の目的地の上野寛永寺に着く。来年創建 400 周年迎えるにあたり根本中堂は改装工事中で堂内の見学は残念ながら出来なかった。天台宗の寺院では、比叡山にならって本堂を根本中堂と呼ぶことがある。上野寛永寺は芝増上寺と並ぶ徳川歴代将軍の菩提寺で 6 人の将軍が埋葬されている。霊廟には 4 代家綱、5 代綱吉、8 代吉宗、10 代家治、11 代家斉、13 代家定が眠っている。寛永寺の歴史を知ると、上野公園をただ公園として訪れた時には見えなかった広大な寺院の姿が浮かび上がってくる。 寛永寺から東照宮まではトイレタイムをとりながら 30 分位であった。上野東照宮は現存する金色殿や透塼、唐門は慶安 4 (1651) 年に 3 代将軍徳川家光公が造営替えをしたもので、遠く日光までお参り行く事が出来ない江戸の人々の為に、日光東照宮に準じた豪華な金色殿を建立した。この造営替えに際し約 250 基の灯籠が全国の大名家から競う様に奉納された。金色殿などの豪華な建造物は貴重な江戸初期の建築として国の重要文化財に指定されている。東照宮拝観の後、トイレの都合で後回しにした寛永寺開山堂(両太子堂)に引き返して拝観する。 バスに乗車して巣鴨高岩寺に着く。言わずと知れたとげぬき地蔵尊である。お寺自体は火災に遭ったためコンクリート造りになっているが、本堂内はそれなりの威厳があり、落ち着いた雰囲気である。境内の地蔵には人が集まり、それぞれ体の調子の悪い部分を、濡らしたタオルで擦って拜んでいた。列が出来ていたが、折角来たので私も我が家から持参したタオルで磨いてあげた。 とげぬき地蔵から柴又帝釈天題経寺までバス移動する。駐車場からレトロな帝釈天参道に移動。旅の楽しみの一つは食事である。昼食は事前に予約しておいた「高木屋老舗」である。今日の献立は、おでん(6品)、茶めし、みそ汁、小鉢の刺身(鮪/タコ)、胡瓜もみ、草だんごを美味しくいただいた。店の壁には渥美清さんや山田洋次監督、歴代のマドンナなど貴重な品々が展示してある。食事をしながらゆっくり楽しんだ。「男はつらいよ」の出演者やスタッフの撮影の憩いの場となっただけに従業員の対応も良かった。 高さ約 10m 枝張東西約 16,6m 目通り幹周 1,8m もあり、四方に枝を拡げている樹齢 400 年「端龍の松」の下を通り、帝釈堂の本堂をお参りする。まず「彫刻ギャラリー」を鑑賞する。帝釈堂の見どころは内外に、数多くの木彫が施されている。特に有名なのは帝釈堂外側を囲む、法華経説話を主題とした十枚の胴羽目彫刻である。見学した後は、遂溪園へ進む。ここでの庭園鑑賞は疲れた足を休めるのにもってこいであった。 帰りはバスの中での団欒を楽しみながら無事に帰着、天候にも恵まれ絶好のバス探訪となった。	
参加者の状況・意見など 多くの参加者から企画良し天候良し、東京も楽しかったとの声があった。参加者の多くが気にしたトイレも、事前調査で確認し無理なく行動できた。	
次回の予定： <ul style="list-style-type: none">令和 6 年 12 月 5 日(木) 10 時 京急富岡駅 テーマ「富岡の古刹巡りと長昌寺住職のお話し」令和 7 年 1 月 10 日(金) 10 時 北鎌倉駅東口 テーマ「建長寺をじっくり拝観」	